

《きらきら星》の旋律で変奏曲をつくろう

教科・場面

音楽

授業・実践のねらい

- ・自分の曲が作れたという達成感を味わう。
- ・曲を作る楽しさを味わう。

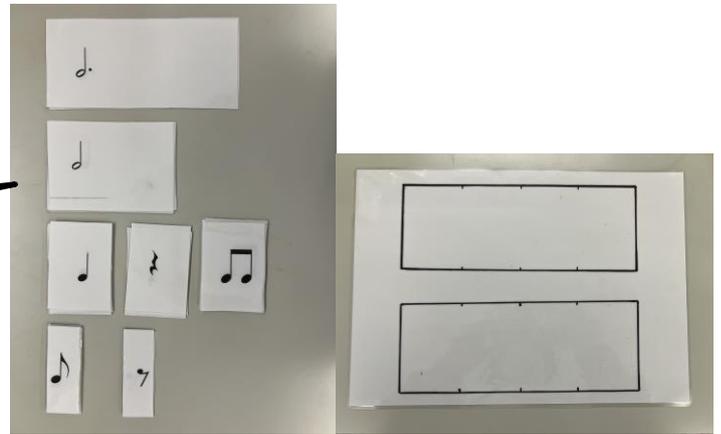
対象の児童・生徒

高等部 グループ

- ・ J-POP 等お気に入りのアーティストの曲は知っており、歌唱は声を出して歌うことができる
- ・ 言葉のやり取りを行うことができる

教材・教具

- ・ 『高校生の音楽 1』 教育芸術社 (P.122 ~ P.123)
- ・ 音楽記号カード (暗記用)
- ・ 音符休符カード (暗記用)
- ・ 音符休符カードとシート (リズム創作用)



工夫したところ

音符休符カードの 1 拍の横の長さを決め、その音符にあう幅にした。
シートの 1 枠が 1 小節で、目盛は 1 拍とした。

授業展開

- | | |
|-----|--|
| 楽典 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽記号 (強弱記号、) の学習 (1 学期) ・ 音符、休符の名前と拍の長さ、拍子、長調と短調 (2~3 学期) |
| リズム | <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体でリズム「ドラえもん」(1 学期) ・ 身体でリズム「きらきら星」(3 学期) ・ 「きらきら星」の階名唱、「きらきら星」の主題のリズム (11 月~2 月) |
| 創作 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音符カードとシートを活用してのリズム作り (11 月~2 月) ・ 全員の作品を収めた『きらきら星の主題による 11 の変奏曲』完成 (2 月) ・ 作った作品を教師の演奏で聴く。 |

教材の使い方・実践の内容など

- ・ シートの枠内に収まるように音符や休符をはめていくとリズムが作ることができる。
- ・ 教科書の変奏のヒントの中から、もとの旋律のリズムを変化させて作った。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・ それぞれの生徒が枠内に収まるように考え、いろんな音符や休符を使って完成することができた。
- ・ 作ったリズムをきらきら星の音にあてはめて弾いた教師の演奏を聴いて、曲を確かめることができた。
- ・ 「星のきらきら輝く様子をイメージした」と作った曲への思いを伝える生徒もいた。